



1. 香港の水作戦
2. 幼稚園児も知っている
3. 「夢の島」が「夢の島」へ

1. 香港では水の消費量は年間約2億tである。年雨量は平均2200mmであって、わが国の多雨地帯に匹敵しており、決して少ない量ではない。しかし5~11月の雨季と、その他の乾季というように時期的に画然とわかたれているために、上水道用貯水池による調整はきわめて必要とされている。ところが、川や池がほとんどなく、1962年から63年の異常渇水年には、船舶給水、タンカーによる買水などで苦難をしのいだ。このため政府では全容量7000万tに達する15ヵ所の貯水池の建設を行ない、さらに1963年以来容量1億3500万tの大貯水池をトロ湾のプロパーコープ入江を締切ってこれを淡水化するべく、現在鋭意施工中である。

3月末において、ちょうど締切堤（アースダム）のコア部分が完成し、また貯水池側のロックフィルも大体カバーされ、湖内の海水は-17ftまで汲み出されている。

香港では各貯水池が導水管で相互に連結されていて、A貯水池が満杯になると、B貯水池へ送られる。したがって、ある貯水池についての流域面積などという概念が成立しない点はまことに奇異である。また山中の貯水池では、その貯水面以上のレベルに沿って鉢巻状に山頂を取囲む水路を設けて分水界の向う側の水まで集めるし、またさきの導水管は谷を横切るところで必ず溪流取水を行なう。

かくして領内に降った雨は一滴の末に至るまでイギリス女王の所有であり、むだなく領民の利用に供せられる。これに比して、わが国の水利用はまだむだが多く、河口計画の推進も今後ますます多く試みられるべきであろうし、既存の自然湖、人造湖の利用、水路の造成などで、総合的に水利用計画がたてられることが望ましいと痛感させられる。

[C]

2. 出張するといろんな珍しい話を聞いたり物事を見たりする機会に恵まれる。と同時に、最近では都市ばかりでなくなんとなく田舎味のするところでも、ちらほらと道路をまたぐ跨道橋にお目にかかる。その大半は、まだ真新しい物ばかりだから、これも珍しい物のうちの一つかも知れない。

都市にかぎらず年々車の増加は驚くばかりであるが、それに比例して交通事故による犠牲者が急増している現実の原因が何であるのか、そしてその対策はどうすればよいのか、答は一つしかないはずだし、少なくとも幼稚園児以上であればだれでも答えられるだろう。

安全施設が不備であるために、貴重な人命が、それも多くが将来のある児童、生徒が失われてゆくのをまのあたりに見れば、何はさておいても施設を整備しなければならない。建設省もようやく予算のうえでも実施の面でも本腰で乗り出したが、特に歩行者の安全に最も効果をあげている跨道橋はいくらあっても実害はないし、また安全過ぎることもない。通学路に重点をおき、交通量の多い箇所効果的に配置すれば事故の減少は目にみえて成果があがるだろうし、「死傷者ゼロ」の実現も決して不可能でない。重ねて提言したい。

[J]

3. 東京湾に夢の島といわれる島がある。昭和32年から東京都江東区の海岸から500m先の東京湾の中にゴミの投棄が始まり、ここに有名な「夢の島」が誕生したわけである。島に投棄されるゴミの量は一日約3000tで、東京全都の1/3のゴミを引き受けていた。この島に関しては問題がいろいろあった。昭和40年夏にはハエが大量に発生し、付近の学校では児童がハエたたきを持って登校したり、その後ではネズミの大量発生があり、その他悪臭の蔓延等、その対策としてときには自衛隊が出動し焦土作成を行なったり、毒ダンゴ作戦が展開されたりし、後にはゴミを捨てる後から完全に覆土し殺虫剤の散布を行なう等いろいろの話題を提供してくれたが、この夢の島もこの3月でゴミ箱としての任務を終了することになった。その後は島は完全に覆土され、一部に世界最大の清掃工場が建設されゴミの焼却を行ない、残りの地域には熱帯植物園、温水プール等の施設が建設され、都民の一大レクリエーションセンターに生まれ変わり、文字どおりの「夢の島」になる予定ということである。今後ますます重要性を帯びてくるであろうゴミ処理に対する心がまえ等を確立すべき時点に、きているのではなかろうか。

[S]